

# 特集 広げよう！ SDGsの輪

SDGsを知っていますか。「言葉は聞いたことはあるけど、内容はあんまり」という方も多いのではないのでしょうか。  
今月号では、SDGsについて、市内の取り組み事例を交えて紹介します。この機会に、SDGsについて考えてみませんか。

## SDGsの理念は、「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」

今、世界では貧困や差別、環境問題など、様々な問題が発生しています。このまあいくと、地球は限界を迎えてしまうという発表もされておき、地球上の資源の有限性や環境面での制約が明らかとなつていきます。これらの問題を解決し、2030年までに持続可能な社会を実現させるため、2015年に国連で採択された国際目標が「SDGs（持続可能な開発目標）」です。日本だけでなく、世界中の国々で取り組まれています。

SDGsでは、達成に向けた17の目標が設定されています（右記参照）。SDGsに関係するのは国家レベルのグローバルな取組だけでなくではありません。私たち一人ひとりの取組が不可欠です。



## やってみよう！簡単にできるSDGsアクション！

例えば、買い物をする時は、エコバックを持参し、レジ袋を買わない、リサイクル製品など環境に配慮して生産された商品を選ぶ。家にいる時は、節電・節水を意識する、家族で平等に家事分担をするなどです。8〜9ページには、身近にあるSDGsの取組を紹介しています。まずは、日常生活を振り返り、取り入れられるものから始めてみましょう。

### SDGsアイコンに込められた思い

17個のSDGsアイコンは、複雑な社会課題を分かりやすく伝え、行動に移してほしいという思いのもと、シンプルで分かりやすいデザインとなっています。アイコンは、SDGsに取り組む企業や団体でも使用されています。



## 田辺市が、県内で初めて選出されました



田辺市が、「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選ばれました。両方での選定は、県内で初めてです。田辺市には、里山を守り、身分や性別に関係なく、何人をも受け入れてきた熊野の文化があり、これはSDGsの「誰一人取り残さない」という理念にも合致しています。

今後は、提案した事業を進めていくことで、安心して住み続けることができる社会につなげていきたいと考えています。



### SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業とは

国では、自治体の成功事例を全国に普及させるため、SDGsの優れた取組を提案した地方自治体を「SDGs未来都市」として選定し、その中でも特に優れた先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として選定することで、持続可能なまちづくりを支援しています。

☎ 企画広報課 企画調整係 ☎ 0739 (26) 9963

## 「誰一人取り残さない」社会へ SDGsの達成に向けた17の目標

- |                                    |   |                                   |  |
|------------------------------------|---|-----------------------------------|--|
| <p><b>1 貧困をなくそう</b></p>            | <p>貧困をなくし、みんなが豊かな生活を送れるようにしましょう</p>             | <p><b>10 人や国の不平等をなくそう</b></p>     | <p>世界中から不平等、格差をなくそう</p>                  |
| <p><b>2 飢餓をゼロに</b></p>             | <p>みんなが栄養のある食事ができるようにしよう・環境に優しい農業を取り入れよう</p>    | <p><b>11 住み続けられるまちづくりを</b></p>    | <p>誰もがずっと安全に暮らせる、災害に強いまちをつくろう</p>        |
| <p><b>3 すべての人に健康と福祉を</b></p>       | <p>みんなが健康で幸せな生活を送れるようにしましょう</p>                 | <p><b>12 つくる責任 つかう責任</b></p>      | <p>環境と人々の健康を意識して生産しよう・物を大切にし、ごみを減らそう</p> |
| <p><b>4 質の高い教育をみんなに</b></p>        | <p>みんなが公平に、良い教育を受け、生涯を通じて学習できる機会を広めよう</p>       | <p><b>13 気候変動に具体的な対策を</b></p>     | <p>気候変動を軽減させるため、環境に優しい暮らしをしよう</p>        |
| <p><b>5 ジェンダー平等を実現しよう</b></p>      | <p>男女平等を実現し、女性が活躍できる社会を作ろう</p>                  | <p><b>14 海の豊かさを守ろう</b></p>        | <p>海の資源を守り、大切にしよう</p>                    |
| <p><b>6 安全な水とトイレを世界中に</b></p>      | <p>みんなが安全な水を利用できるように水資源の保護、管理をしよう</p>           | <p><b>15 陸の豊かさも守ろう</b></p>        | <p>森林を守り、育てることで様々な生物が生きられるようにしよう</p>     |
| <p><b>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b></p> | <p>みんながエネルギーに困らないようにしよう・環境に優しいエネルギーを積極的に使おう</p> | <p><b>16 平和と公正をすべての人に</b></p>     | <p>犯罪をなくし、みんなが法や制度で守られる社会をつくろう</p>       |
| <p><b>8 働きがいも経済成長も</b></p>         | <p>みんなが生産的で働きがいのある仕事ができる社会を作ろう</p>              | <p><b>17 パートナシップで目標を達成しよう</b></p> | <p>みんなで協力し、これらの目標を達成しよう</p>              |
| <p><b>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</b></p>    | <p>環境に優しい技術開発を進め、みんなに役立つ社会基盤を整備しよう</p>          |                                   |  |

あかね材

持続可能なものづくり

## 木材ブランディングで 山を守る—

スギノアカネトラカミキリという虫による食害を受けた木材「あかね材」を活用し、ものづくりに取り組む榎本さん。地域の課題に新しい価値を吹き込むため、チームを結成し、あかね材の普及に取り組んでいます。

あかね材は、強度や品質に問題がないとされながらも、見た目が悪いので売れない、売れないから山から人が離れるという悪循環になっています。山には伐採もされず放置されている木がたくさんあります。山のことを知り、木材を

積極的に使うことは森林の循環を促し、環境を守ることに繋がります。

また、ものを売るだけでなく、山や林業の現状を伝え、関心を持ってもらえるよう森林体験ツアーやあかね材を使ったワークショップの開催もしています。一つひとつの個性、ありのままの良さを発信し、熊野の山を守っていきけるよう持続可能なものづくりをこれからもめざしています。



チームの皆さん



食害を受けた木材



まさあき  
榎本 将明 さん

# 地域課題をビジネスに 企業との協働で実践

市では、地域課題の解決に向け、ビジネスの手法で考える人材の育成とビジネスモデルの創出をめざした「たなべ未来創造塾」を創設しています。たなべ未来創造塾では、講義を通じて、塾生自らが解決できる地域課題を探し出し、地域と企業の協働によって実践しています。

たなべ未来創造塾を卒業し、地域課題を新たなビジネスとして活動をしている3名を紹介します。農業や林業を知ってもらうため、多方面へ魅力を発信することで、全国から注目をされています。また、こうした活動はSDGsという観点からも大きな役割を担っています。このような事例が田辺市からさらに出てくることでSDGsの目標達成にも近づくのではないのでしょうか。



### ■主な受賞

- ◇岡本さん 2021年 ディスカバー農山漁村の宝（農林水産省）
- ◇榎本さん 2018年 間伐・間伐材利用コンクール特別賞（間伐・間伐材利用推進ネットワーク）
- ◇中川さん 2021年 SDGs事業認定（一般社団法人日本SDGs協会）

## 地域で輝く ローカルイノベーター

地域課題に  
取り組む人



ドングリの苗

## 木を伐らない林業—

山を育てる林業に特化した会社の創業者である中川さんは、森林の植栽や山林管理などに取り組んでいます。

全国には、木を伐採した後に植林されず放置されている山が60%以上あり、次が生まれない、いわば少子高齢化の状態になっています。

中川さんが特に力を入れているのが植樹。ウバメガシなどのドングリを山で採取し、市街地の耕作放棄地を活用したコンテナ苗を生産することで、地域に根差した取組を進めています。2年かけてドングリから苗木を育て、20センチ程まで成長したら、山に植栽します。

また、熊野の森再生事業として、趣旨に賛同した地域企業が、それぞれの企業の空き地などでコンテナ苗を育成し、その苗を中川さんが買い取ることで、企業の負担を軽減しながら、山に植栽するとともに、代金の一部を山づくりに還元していくことで持続可能な山づくりも進めています。苗木を育てることで、山を身近に感じてもらえることも期待しています。

ドングリの苗  
持続可能な山づくり



まさや  
中川 雅也 さん



地域企業が苗を育成

## 農業の未来のために できることを—

農業を営む岡本さんは、鳥獣被害・耕作放棄地・高齢化による担い手不足という地域の課題を解決するため、若手農家とともにチームを結成しました。

苦労して育てた農作物がイノシシやシカに食べられてしまう。チームは狩猟を始め、ただ捕獲するだけでなく、イノシシやシカをジビエとして有効活用することで新たなビジネスとして取組を進めています。また、耕作放棄地の解消のために、剪定などの農作業を受託。今後は、耕作放棄地を借りて再生し、農地を見付けるのが難しい新規就農者などへ提供できるよう受け入れる側としての準備をしています。

さらに、岡本さんは農業やジビエのことをもっとたくさんの人に知ってもらうため、農業や狩猟を体験しながら学べる取組を季節ごとに企画しています。市内外から人を呼び込み、交流することで新たな雇用も生み出し、持続可能な農業を進めています。

ジビエ  
持続可能な農業



かずのり  
岡本 和宜 さん



おなげ



ジビエ料理

# 身近なところに SDGs

市内で見つけたSDGsの取組を紹介します。  
どんなことがSDGsにつながるのか、みんなの取組を見て、身近なところから始めてみませんか。



## 届けよう、子供服 学校と地域が一体となって

昨年、3年生の先輩方が中心になり、全校生徒が一体となって難民に子供服を届けるプロジェクトを行いました。服を集める回収ボックスやチラシ、ポスターを作ったり、学校や保育園などに協力のお願いにも行きました。地域や世界の方とつながりが持てて、うれしかったです。

今年は、私たちが中心になり、このプロジェクトを継続していきたいと思います。



大塔中学校  
生徒会の皆さん

いらなくなったものは、リサイクルや、フリーマーケットに出品したり、寄附をしよう。  
また、物を大切にしよう。

新庄漁協では、ひじき藻場の再生事業に取り組んでいます。ひじきが生き茂って藻場ができることで、生物が集まり、豊かな漁場の造成につながります。また、ひじきなどの藻類はCO<sub>2</sub>を吸収するため、脱炭素化にも貢献しています。ひじき藻場の再生事業を通して、次世代に美しい環境と豊かな海を残していきたいです。

## 次世代に 豊かで美しい海を



新庄漁協青年部  
いわお  
後 巖さん

海や山の環境を学ぶ、自然観察教室に参加しよう。

問 ふるさと自然公園センター  
☎ 0739 (25) 7252



## 弁当箱回収で 環境問題に取り組む

当店では、環境に配慮するため回収型の弁当箱を利用しています。

最初は手間がかかり大変な面もありましたが、回収の際にお客様の感想を伺ったり、弁当の残り具合を確認することができるため、食品ロスにもつながっています。今ではとてもやりがいを感じています。



よして  
濱口 芳光さん

私たちがマイバッグ・マイボトル・マイ箸などを使って、ごみを減らそう。



## ごみを減らしたい という思いから



瀧浪 久美子さん



10年程前から生ごみ処理機を使っています。毎日出るごみの臭いなどに悩まされることもなくなって助かっています。

また、生ごみ処理機でできた肥料は、花やネギなどのプランター栽培に再利用しています。



環境にやさしい肥料が作れるので持続可能な農業におすすめです！

市では、生ごみ処理機器の購入費を補助しています。  
問 廃棄物処理課 ☎ 0739 (24) 6218

家でも  
取り組めます！

田辺高等学校  
まなみ  
岸裏 菜波さん



SDGsの取材を通じて感じたことは、「地域のつながり」と「助け合いの精神」が大切だということです。取材させていただいた皆さんは、地元愛が強く、自身の事業はもちろん地域貢献にも熱意がある方ばかりで、お話しさせていただく中で、私も地元が好きになりました。高校生レポーターをやった良かったと思います。

最近家では生ごみ処理のためにコンポストを始めました。生ごみは5日ほどでほとんど分解されています。今後家ではごみ収集に生ごみを出さないことが目標です！

昨年1年間、広報たなべの高校生レポーターとしてSDGsを取材していただいた、岸裏さんにお話を伺いました。



## 気軽に集える居場所作り

一人暮らしの高齢者や、小さいお子さんを持つ方などを対象にした活動をしています。高齢者の居場所作りとして、月1回ボランティアのみなで料理をした食事を囲んで、交流を楽しんでいます。

また食材は、フードロスに取り組む企業から寄附していただいています。



ボランティアの皆さん

社会福祉協議会では、地域の方が主体となって取り組む福祉活動に対して、支援しています。

☎ 0739 (24) 8329

